

## 会員発表紹介

### 術後補助療法のXELOX療法に対する電話サポートの効果の検討

○遠藤 征裕<sup>1)</sup> 齋藤 鈴子<sup>2)</sup> 森川 和夫<sup>1)</sup> 橋本 正治<sup>3)</sup>  
1) 秋田県厚生連由利組合総合病院 薬剤科 2) 看護部3) 外科

#### 【目的】

StageⅢの大腸癌の術後補助療法はNO16968試験においてXELOX療法の有効性が確認されており広く一般臨床にも使用されている。しかし、XELOX療法は治療の中に経口剤を含むため、コンプライアンスの維持が治療効果に影響を与える。また、カペシタビンの特徴的な副作用に手足症候群があり手足の保湿などの患者指導が副作用の発現に大きく関わってくる。当院ではXELOX療法に対し電話サポートを行っておりコンプライアンスの確認、患者指導などを行っている。今回術後補助療法における電話サポートの効果について検討した。

#### 【方法】

StageⅢaⅢbの術後補助療法の結腸直腸癌を対象にクールのday8・15に電話でコンプライアンス・副作用の確認と患者指導を3クールまで行った。対象患者の治療完遂率・副作用発現率・相対的用量強度などを後方視的に検討した。

#### 【結果】

2010.11-2015.3の期間においてXELOX療法を施行した患者11名を対象とした。患者背景として年齢中央値62歳、男女比6/5、原発部位 結腸：8盲腸：2直腸：1、StageⅢa：2Ⅲb：9であった。完遂率として82%であり、副作用で手足症候群の発現のG1が18%であった。

#### 【考察】

大腸癌術後補助療法としてのXELOX療法の完遂率として82%でありNO16968試験の完遂率69%と比較して良好な結果であった。副作用に関しても手足症候群の発現でG1が18%と他の臨床試験に比べて軽度であり、患者指導の効果が見られた。またコンプライアンスの面からも電話で確認を行うことにより不良例は1例も見られなかった。

#### 【結論】

XELOX療法に対しての電話サポートは治療完遂率・副作用・コンプライアンスに対して有効な可能性が示唆された。

日本病院薬剤師会東北ブロック第5回学術大会  
(平成27年6月6-7日)

## 会員発表紹介

当院での外来オピオイドサポートと薬薬連携の取り組みについて

○山田郁恵<sup>1)</sup> 鈴木聡子<sup>2)</sup> 遠藤征裕<sup>1)</sup> 森川和夫<sup>1)</sup>

1) JA 秋田県厚生連 由利組合総合病院 薬剤科 2) 看護部

【目的】近年医療用麻薬の使用が増加しており、フェンタニル製剤の速放錠が発売されるなど、使用方法も多様化してきている。また、外来で医療用麻薬を処方された患者で服用方法が間違っている症例が散見されている。以上のことにより外来患者指導の充実化を図るため、薬薬連携を含むオピオイドサポートを行うこととした。

【方法】患者が来院し、医療用麻薬が新規で処方されると、院内、院外処方に関わらず院内薬局の薬剤師による服薬指導を行い、その後看護師がアセスメントシートを用い、疼痛の評価を行う。その後院外処方の場合は患者から同意を貰い、薬薬連携を行う。継続時は看護師によるアセスメントシートの内容を元に薬剤師が処方提案を行う。2014年11月～2015年5月までに外来オピオイドサポートを行った全患者を対象に、提案内容、採用の可否を調査した。提案後の患者状態をFSやCTCAEを用い、改善・不変・悪化の3項目で評価し、考察を行った。

【結果】介入症例は10症例で、総面談回数は41回。面談回数の中央値は3回。処方などの提案回数は22回で、採用率は64%だった。介入後の患者の状態は、提案が採用となった14件のうち、改善は9件で64%。不変は5件で36%。悪化は0件で0%だった。

【考察】アセスメント後約半数で処方提案が行われたことより、医療用麻薬の処方されている患者では、多くの場合病状の変化に伴う痛みの増減があり、継続的に痛みの程度や副作用のモニタリングが必要であると考えられた。処方提案を行ったうち、36%は不採用だった。オピオイドサポートを開始したばかりで、医師への周知が不十分であったためと考えられた。介入後の患者の状態は改善9件（64%）、不変5件（36%）と、一定の有効性が示唆された。

第26回秋田県薬剤師会オンコロジー研究会（APOS）（平成27年7月4日）